国東市民病院薬剤師修学資金の貸与に関する条例施行規程

(目的)

第1条 この規程は、国東市民病院薬剤師修学資金の貸与に関する条例（令和6年国東市条例第34号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(貸与額及び貸与期間)

第2条 修学に必要な資金（以下「修学資金」という。）の貸与額は、月額14万円とし、年額168万円を上限とする。

2 修学資金の貸与期間は、大学における正規の修学期間内において3学年に在籍する年度から最終学年である6学年に在籍する年度までの4年間を上限とする。

(貸与の申請手続)

第3条 修学資金の貸与を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、国東市民病院薬剤師修学資金（新規・継続）貸与申請書（様式第1号。以下「貸与申請書」という。）に次に掲げる書類を添えて、国東市病院事業管理者（以下「事業管理者」という。）に提出しなければならない。

- (1) 大学の在学証明書
 - (2) 成績証明書（在学する大学における修学資金貸与申請年度の前年度までのもの）
 - (3) 履歴書
 - (4) 住民票の写し（本籍地及び個人番号、住民票コードを除いたもの）
- 2 修学資金の貸与を受けた者（以下「修学生」という。）で、次学年の年度も継続して申請しようとする者は、毎年度、貸与申請書に次に掲げる書類を添えて、事業管理者に提出しなければならない。

- (1) 大学の在学証明書
- (2) 成績証明書（在学する大学における修学資金貸与継続申請年度の前年度のもの）

(貸与者の選考方法)

第4条 事業管理者は、将来的に病院運営に必要な薬剤師数を考慮して、修学資金の貸与人数を決定するものとする。

2 事業管理者は、前条に規定する申請があったときは、速やかに書類審査及び面接審査を行うものとする。ただし、前条第2項に規定する申請があった場合は、面接審査を省略することができるものとする。

(貸与の決定)

第5条 事業管理者は、前条による選考のうえ、修学資金の貸与の可否を決定し、国東市民病院薬剤師修学資金貸与承認（不承認）決定通知書（様式第2号）により、その結果を申請者に通知する。

2 事業管理者は、申請者が年度の途中において貸与の申請をした場合は、年度当初に遡って貸与の決定をすることができる。

(誓約書の提出)

第6条 前条の規定により貸与の決定の通知を受けた申請者は、速やかに連帯保証人2名が署名した誓約書（新規・継続）（様式第3号）に連帯保証人2名の住民票の写し（本籍地及び個人番号、住民票コードを除いたもの）及び完納証明書（滞納のない証明書）を添えて事業管理者に提出しなければならない。

（連帯保証人）

第7条 連帯保証人は、独立の生計を営む20歳以上の成年者（学生でない者）であって、修学資金の返還の責任を負う事ができる資力を有する者でなければならない。

2 申請者は、連帯保証人が死亡、又はその他の事由により変更しようとするときは、連帯保証人変更届（様式第4号）に変更しようとする連帯保証人の住民票の写し（本籍地及び個人番号、住民票コードを除いたもの）及び完納証明書（滞納のない証明書）を添えて事業管理者に提出しなければならない。

（貸与の方法）

第8条 事業管理者は、別表に規定する修学期間での貸与上限額を超えない範囲内で、申請者と協議の上で修学に必要な額を貸与することができる。

2 事業管理者は、当該年度分の修学資金を上・下期に分け、上期にあつては5月末までに、下期にあつては12月末までに、申請者名義の口座に振込むものとする。

3 申請者は、あらかじめ薬剤師修学資金貸与に伴う口座振込依頼書（様式第5号）を提出しなければならない。

（貸与の決定の取消し及び貸与の停止の通知）

第9条 事業管理者は、条例第6条の規定により貸与の決定を取り消したとき、又は貸与を停止したときは、国東市民病院薬剤師修学資金貸与取消（停止）通知書（様式第6号）により、修学生及び連帯保証人に通知する。

（辞退の届出）

第10条 修学生は、修学資金の貸与を辞退しようとするときは、国東市民病院薬剤師修学資金辞退届（様式第7号）を事業管理者に届け出なければならない。

（借用総額確認書の提出）

第11条 修学生は、第2条に規定する貸与期間が終了したとき、又は条例第6条の規定により貸与の決定が取消されたときは、連帯保証人2名が署名した借用総額確認書（様式第8号）を事業管理者が定める日までに提出しなければならない。

（返還事由）

第12条 修学生は、次の各号のいずれかに該当する事由が生じたときは、事業管理者が定める日までに一括又は分割払いで、貸与した修学資金の全額を返還しなければならない。

(1) 修学資金の貸与を取り消されたとき。

(2) 大学を卒業した日から1年を経過する日までに薬剤師の免許を取得しなかったとき。

(3) 薬剤師の免許を取得した後、直ちに国東市民病院に薬剤師として採用されなかったとき。

- (4) 第 14 条第 2 項で規定する期間の途中で退職したとき。
- (5) 虚偽の申請、又はその他の不正手段によって貸与を受けたと事業管理者が認めたとき。

(返還の猶予の申請)

第 13 条 条例第 9 条の規定により、修学資金の返還の猶予を受けようとする者は、国東市民病院薬剤師修学資金返還猶予申請書（様式第 9 号）に申請事由を証する書類を添えて、事業管理者に提出しなければならない。

- 2 事業管理者は、修学資金の返還を猶予する、又は猶予しない旨の決定をしたときは、その旨を国東市民病院薬剤師修学資金返還猶予承認（不承認）通知書（様式第 10 号）により、修学生及び連帯保証人に通知する。

(返還の免除の申請)

第 14 条 条例第 7 条の規定により修学資金の返還の免除を受けようとする者は、国東市民病院薬剤師修学資金返還免除申請書（様式第 11 号）にその事実を証する書類を添えて事業管理者に提出しなければならない。

- 2 条例第 7 条第 1 項第 1 号で定める期間は、別表のとおりとする。
- 3 事業管理者は、修学資金の返還を免除する、又は免除しない旨の決定をしたときは、その旨を国東市民病院薬剤師修学資金返還免除承認（不承認）通知書（様式第 12 号）により、修学生及び連帯保証人に通知する。
- 4 条例第 7 条第 2 項で定める事由は、次に掲げるものをいう。
 - (1) 災害その他不可抗力によるもの
 - (2) 育児休業、介護休業その他やむを得ない事由によるもの
- 5 条例第 7 条第 2 項で定める計算方法は、当該修学生に係る修学資金貸与期間に 2 年を加算した期間に相当する期間から、疾病、負傷その他やむを得ない事由により薬剤師の業務に従事できなかったと事業管理者が認める期間（当該期間に 1 か月未満の端数があるときはこれを切り上げた期間。ただし、12 か月を限度とする。）を減じて得た期間とする。

(異動の届出)

第 15 条 修学生は、次の各号のいずれかに該当したときは、速やかに、その事実を証明する書類を添えて事業管理者に届け出なければならない。

- (1) 心身の故障により修学の見込みがなくなったとき。
 - (2) 休学し、復学し、又は退学したとき。
 - (3) 停学その他の処分を受けたとき。
 - (4) 卒業したとき。
 - (5) 薬剤師の免許を取得したとき。
 - (6) 氏名又は住所を変更したとき。
 - (7) 連帯保証人の氏名、住所に変更があったとき又は連帯保証人が死亡し、若しくは連帯保証人に連帯保証人として適当でない事由が生じたとき。
- 2 修学生が死亡したときは、連帯保証人又は相続人は、速やかに、その旨を事業管

理者に届け出なければならない。

(面談の要求)

第 16 条 事業管理者は、修学資金の貸与の目的を達成するために必要があるときは、修学生に面談を求めることができる。

(修学状況の調査)

第 17 条 事業管理者は、修学資金の貸与の目的を達成するために必要があるときは、修学生の修学状況について、在学する大学に調査を求めることができる。

(補則)

第 18 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、事業管理者が別に定める。

別表（第2条、第14条関係）

貸与上限額	条例第7条第1項第1号で定める従事期間	備考
1,680,000円以下 （月額14万円×1年間分）	3年間	※年間168万円を超えない範囲で、修学に必要な経費の貸与を行う。
1,680,001円～3,360,000円 （月額14万円×2年間分）	4年間	
3,360,001円～5,040,000円 （月額14万円×3年間分）	5年間	
5,040,001円～6,720,000円 （月額14万円×4年間分）	6年間	